

平成 25 年 11 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、悪いと感じている人が、10月分よりも減少している。11月分では、引き続き「円安による原材料と燃料等の値上がり」等により収益の確保が困難との報告が多い。消費税増税前の需要については、小売業で、季節商品の消費が多少増えた一方で、「消費者の買い控え」を感じている。また、「駆け込み需要」は多くない模様である。建設業では、入札案件はあるが、低入札で苦しい状況が続いている。また、ほとんどの業種でこれまでの景気低迷により、人員・設備等のスリム化に努めてきたことから、ここに来て仕事量は増えたものの対応できない状況が起きている。

このような中で、自動車関連の機械器具製造業では、受注に結び付く引合いが増えているとの報告と受注減少との報告がある。また、繊維工業から、仕事の確保が出来ている企業と仕事の無い企業があるとの報告があるなど、景気回復に対する実感は、依然として良否が混在している状況である。

山口県の主要指標 DI 値（平成 25 年 11 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：13.8% 悪化：23.8% DI 値：▲10.0% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：21.3% 減少：32.5% DI 値：▲11.2% ポイント

収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転：7.5% 悪化：36.3% DI 値：▲28.8% ポイント

山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 25 年 11 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲57.1	▲25.0	0.0	▲50.0	0.0	11.1	▲50.0	▲18.2
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
0.0	▲22.2	▲25.0	▲33.3	40.0	▲14.3	▲4.3
						

全 体
▲10.0


特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	鶏卵の値上がりをはじめとし、砂糖・小豆など原材料は上昇中。出雲地方に観光客を取られ、県内では菓子が売れる場所はない。	パン・菓子製造業
	11月売上高は+1.2%と前年同月を僅かにクリア。4月～11月の通期累計は▲4%と厳しい推移。11/27に観光庁で“世界に通用する究極のお土産”の最終選考で「オイルルージュ」・「オイルポニーフィッシュ」の2製品が全国ベスト10に入った。12/3に農水省では、“フードアクションニッポン AWARDED 2013”で、当館が流通部門の優秀賞を獲得した。4年ぶり2回目である。	水産食料品製造業 萩市
	副原料や資材などの値上げが行われコスト面でとても逼迫している。一部製品の値上げを検討するが、販売面で不安である。消費税増税後等の動向が読めないでいる。一時の景気の向上感とは裏腹に、値上げや消費税増税などに対する消費者の懸念を感じる。4月以降が不安。	水産食料品製造業 下関市
	原材料・燃料費の増大で、収益率の低下が進んでいる。	
	地球温暖化に伴い、大雨による豪雨被害、作物も高温障害や、害虫の異常発生による被害など、年々激しさを増しているため、抜本的な対策が求められる。	精穀・製粉業
繊維工業	業界全体の業況が非常に悪くなっている。価格が低下し以前に増して厳しい状況。海外品の流入が増え、国内産の衣料品は激減している。企業の経営は縮小均衡が続いており、新規の雇用はほとんど出来ない状況。	下着類製造業
	消費目的の低価格化が継続しているが、差別化された高付加価値商品には消費者の反応が出て来ている。	外衣・シャツ製造業 山口市
	平成25年11月から仕事量が減少する見込みと聞いていたが、実際は順調に推移しており、平成26年1月分の仕事量は確保できている。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	僅かに木材価格上昇の気配がある。消費税増税前の駆け込み需要は顕著に表れていない。今後の需要増に期待する。	製材業・木製品製造業 山口市
	売上高は若干の増加傾向だが、原木高となっており、収益増とはなっていない。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	政府が語るほどに景気回復の恩恵は我々の業界にはきている実感がない。地方は特に大きな差を感じる。春先の紙材値上げが再度行われようとしているが、現況で価格転嫁は困難である。他媒体を含めた総合	印刷 下関市

	の販促提案で取引先を拡げたい。	
	入札、見積もり合わせ等、印刷物件が減少。仕事が無い。	印刷 山口市
窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材116%、路盤材93%、再生材96%、全体では108%の出荷量となっている。	砕石製造業
	出荷量は、前月比、前年同月比とも106%といずれも増加しており、ほぼ前年度並みに復調している。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていない。依然としてセメントなど原材料値上げの動きが続いているが、生コン価格は総じて安定して推移している。また、災害復旧、えん堤作りの山間部工事で、必要な小型生コン車が不足気味の状態が続いている。	生コンクリート製造業
	組合員の仕事量は増えているが、協力土建業者の人手・設備不足により、鳥居の改修等の足場業者の手配が難しいなど、せっかくの仕事もこなすことが出来ないでいる。	石工品製造業
一般機器	円安が主な要因と思われる原材料価格の上昇や納入先の要請が主な要因と思われる納入価格の低下等に伴う収益の悪化がみられる。	一般機械器具製造業 周南市
	自動車関連の受注に結び付く可能性が高い引き合いが増えてきている。こうした動きから、景気が若干持ち直してきたと思える。	一般機械器具製造業 宇部市
	前月の状況から大きな変化はないが、取引先企業の一部に若干の受注増加傾向が見受けられ、組合員企業の業績が好転している状況がある。海外の受注増と国内公共事業の増加の両方が要因と考えられる。外国人技能実習生受け入れについての問い合わせが来ている。	
	金型の製造状況で、操業度は10月とほぼ同等の状況。受注高は、ほぼ今年度予算をクリア出来る予定だが、他社との価格、納期面で非常に厳しい状況が続いている。平成26年1月までの仕事量はなんとか確保出来そうな状況。成形製品の状況は、受注が低迷しており、しばらくは厳しい状況が続くそうである。特に昨年と比べると自動車関係の受注減少が影響している。新規立ち上げの案件に期待するところだが、先行き不透明な状況はしばらく続きそうである。	特殊産業用機械製造業
輸送機器	輸送機部門は依然として低調で、生産高も伸びず、来春まで回復の目途が立たない状況。精密加工部門の一部とプラント部門の一部に明るさが見えるが、全体に占める割合が小さく、長期展望に欠ける。	鉄道車両・同部品製造業

卸売業	<p>マスコミ等では回復基調の報道がなされているが、まだ、地方の中小企業は回復基調とはなっていない。</p>	各種商品小売業柳井市
	<p>消費税増税の駆け込み需要で、自動車のシート等の受注が多少の増加傾向にある組合員もある。</p>	各種商品小売業 防府市
	<p>トラックの出入りは増加しているように感じるが、物品の動きは低調である。</p>	各種商品小売業 山口市
	<p>新規の大型商業施設が開店したが、地元からの商品調達がほとんどなく、地域中小企業の活性化に繋がっていない。</p>	各種商品小売業 下関市
	<p>「ふぐシーズン」に入ったものの、温暖化の影響で気温低下の時期が遅れた事により、消費の出足が遅れ、売上が伸びてない。</p>	生鮮・魚介卸売業
小売業	<p>化粧品の業界では、寒くなってくると肌が乾燥してくるので、クリーム類の需要が高まって、少し単価もアップする。11月21日に東京で組合の全国大会があり、山口県からは、6名が参加した。各メーカーもクリスマス限定品を発売するので、この時期からの店頭は少し賑わってくる。</p>	化粧品小売業
	<p>地域内のヤマダ電機が出店後の1年3カ月で撤退する一方、エディオンの直営店が新たに（11月）出店した。新聞等で話題になっているヤマダ電機の苦境を目に見える形で感じる。衣料品店では、景気が戻って影響があるのは大手衣料品店であり、地元商店街の衣料品店には関係なく、業況は悪くなる一方である。岩国基地では多くの工事案件が出ているが、工員不足により工期が読めずにいる。全業種で仕入れ価格が上昇しており、売上が伸びない状況なので採算は悪化している。飲食店関係は堅調に推移している。</p>	各種商品小売業 岩国市
	<p>11月29日より年末祭事「えびす歳末大感謝祭」がスタート。例年の「歳末大売出し」を改名して実施する。</p>	各種商品小売業 周南市
	<p>10月に続き前年比でプラスとなったが、個人消費の底堅い動きではなく、寒波がプラスに影響したものと思われる。</p>	各種商品小売業 山口市
	<p>今月も売上、客数とも前年割れという厳しい状況が続いている。</p>	各種商品小売業 長門市
	<p>11月は「スペインフェスタ」、「えびす祭り」があったので、売上が少し増加した。12月のボーナス支給に期待する。</p>	山口市
商店街	<p>特に変化も無く、上昇機運も無い。消費税増税前の家のリフォーム、車の買い替え等、大手での大きい買い物等については、駆け込み需要が随所にみられるが、一般の小売店では逆に買い控えを感じる。</p>	萩市

サービス業	消費税増税が気分に影響し来客数が減少している。過当競争で値割れとなっており経営が悪化している。	美容業
	ハイブリッド車等の次世代型自動車の整備に不可欠となる診断機について、国の導入補助制度の公募が行われた。今回は補助対象者を「まだ診断機を保有していない事業者」に限定しているが、「既に一定の診断機を保有している事業者」にも対応し、積極的な事業者への支援策も検討していただきたい。	自動車整備業
	相変わらず状況は厳しいが、新しいビジネスモデルの模索状態から、少しずつターゲットが絞れてきている。一日も早く、新しいビジネスモデルを立上げたい。	情報サービス業
	前年度同月では、特に変化は無い。	屋外広告業
	山口県の業界全体の落込みは、台風等の報道による風評被害の影響があるように感じる。旅館・ホテルとも宿泊は、平日が伸びず苦戦をしている。宴会等の動きが悪かったが、大きな周年宴会で売上の減少を補えた。日帰り客は比較的に多く、バスがよく動いており、土産物購入は増加している。賃金・勤務体系などの条件が合わず、従業員の確保が難しい。	旅館業 下関市
	10月の入浴者数は前年同月比14.5%増加。売上高11%増加。営業利益は前年は54万円の赤字、今年同月は若干の黒字となった。4月の泉質の記者発表以来、入浴者数は13%程度の増加を維持している。温泉水の販売は前年比50%の増加となった。売上高はまだ低いが今後の伸びに期待している。	旅館業 長門市
全般的に「我慢強い経営」を強いられている。政権政府のいう様々な経済の好転材料（円安、株高、給与上昇等）は未だ無い。大企業の好転材料が出てきそうであるが、目立った効果は期待できない。宇部、周南は変化が乏しいが、岩国地区は、多少の好影響が出始めているようである。観光地でも、特に目立った動きはない。今回の水害、水害の風評も影響していると思われるが、基本的には、「工夫がない、マンネリ観光」が原因と思われる。山口県の観光地、行政、飲食業等全員が一致協力して、工夫していかないと、景気回復を願うばかりでは、先は見えない。山口県は、「広域で1つの観光、熟年観光、学会勧誘観光」等絞り込んだ観光方針が大切なのではないだろうか。	飲食業	
建設業	中電への工事申請は10月311件（当市部分252件）、前年同月337件（同271件）。太陽光発電への申請42件、オール電化申請67件（前年は太陽光32件、オール電化27件）。LED街路灯へ	電気工事業

	の切替・新設申請は126件（前年36件）であった。	
	公共工事は、県・市町で件数・金額とも増加傾向にあるが、入札額は依然として低入札が続いている。民間の一戸建て住宅の着工は引き続き増加傾向にある。	土木工事業 柳井市
	公共工事を低入札で落札したため、利益が出ないので大変な模様。	土木工事業 周南市
	11月の受注高は、対前年同月比69%。今年度の累計は、対前年比138%。	土木工事業 萩市
	公共工事は順調に公告されているが、工期が3月までで、下請け業者がいない。ガードマンが忙しくて、何処にもいないため、工事が誰も受注できないでいる。	管工事業
運輸業	輸送荷物はあるのだが、輸送車両が不足する状況が続いており、年末にかけて益々顕著となるとの見方が多い。輸出は横ばいで推移。労働基準法を遵守して、輸送を効率的に行い、売上げは前年対比では約15%弱の増となったが、実利益はプラスマイナスゼロである。油関係は1.5円の値上げ。産油国の情勢不安等の国際情勢に大きく左右され、円安で油価格が上がりコストが上昇する中、運賃は据え置きという反比例の状況は、中小運送業者の経営を圧迫している。	一般貨物自動車運送業 下松市
	輸送稼働は今月も前年同月で10%程度伸びたが、燃料価格がまた上昇基調となっており、価格は前年同月比で、平均12.3%上昇している。ガソリンはこのところ下がっているようだが、軽油は逆に上がっている。元売り業者の話では、軽油は、国内販売より海外輸出の方が割りが良いらしく、国内供給が不足しているらしい。	一般貨物自動車運送業 防府市
	12月の年末に向けて、荷物の輸送量が増加してきている。当組合員を含め、県内の運送業者において、荷物に対して車両が不足している状況が続いている。年末年始は、お歳暮等食品関係の輸送の増加が見込まれる。	一般貨物自動車運送業 宇部市
	10月と比べると稼働率が10%アップしたので、ETCの支払金額も10%のアップとなった。景気はやや上昇しているように感じる。燃料は店頭価格10:132円が11/19に129円に値下がり、組合購入価格も値下がるように期待している。消費税増税や軽自動車税の増税があるが、これを上回る景気のアップを望んでいる。安全運行で頑張る決意でいる。	一般貨物自動車運送業 下関市

	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年比▲2.1%（平成25年10月1日～11月20日分）となり、減少幅は少なくなったが、昨年6月以降の減少は止まっていない。10月1日～31日分は▲2.6%、11月1日～20日分は▲1.4%となった。当組合の取扱いは、光市，下松市，周南市，防府市の地域だが、防府，下松は前年より若干増加、周南は若干減少、光市の地区は大幅に減少している。日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではないが、コンビニートの大企業（鉄鋼化学等の輸入産業）、夜間の飲食店関係が減少しており、タクシー事業者も、歩合給で働く乗務員も、非常に厳しい状況におかれている。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。前月分よりCPが上昇し円安に進んだため、11月のタクシー会社の購入単価は先月に続き+1.1%上昇、前年11月分に比べ+7%となりました。公定料金で容易に収入の増加が見込めない業界で燃料価格の上昇は、組合員であるタクシー会社の経営を苦しめている。輸出関連の大企業では景気が上昇しているようだが、地方の個人消費は一向に回復しているように思われない。（タクシー事業が特に厳しいのかも知れませんが。）年末の繁忙時期をむかえ、せめて大幅に減少した昨年程度の利用があることを切望している。組合員間では、4月の消費税増税について、増税分が運賃に反映できるかどうか、タクシー新法の成立で運輸局の指導がどのようになるか、大いに注目される状況。</p>	<p>一般旅客自動車運送業</p>
--	---	-------------------